

2018年度卒業時満足度調査 結果報告

- ・実施日： 2019年1月23(水) II限 ※基礎ゼミIV最終回
- ・対象： 商学科2年生および国際コミュニケーション学科2年生
- ・対象者数： 345名(商学科167名/国際コミュニケーション学科178名)
- ・回答者数： 285名(商学科140名/国際コミュニケーション学科145名)
- ・回答率： 82.6%(商学科83.8%/国際コミュニケーション学科81.4%)
- ・結果： 以下参照

Table 1 2018年度卒業時満足度調査 学科別平均

学科比較	設問	2017年度				2016年度				年度差		
		全	商	国	差	全	商	国	差	全	商	国
国	1	4.2	4.1	4.3	-0.2	4.0	4.0	4.0	0.0	0.1	0.1	0.2
	2	3.9	4.0	3.9	0.1	3.7	4.0	3.6	0.4	0.2	0.0	0.3
	3	3.9	3.9	4.0	0.0	4.0	4.1	3.8	0.3	0.0	-0.2	0.1
国	4	3.1	2.9	3.3	-0.5	3.1	2.9	3.3	-0.4	0.0	0.0	0.0
	5	4.0	3.9	4.1	-0.1	3.8	3.8	3.8	0.0	0.2	0.1	0.2
	6	4.1	4.0	4.2	-0.1	4.0	4.0	4.0	0.0	0.1	0.0	0.2
	7	4.2	4.1	4.2	-0.1	4.0	3.9	4.0	0.0	0.2	0.2	0.2
国	8	4.0	3.9	4.1	-0.2	3.9	3.9	3.9	0.0	0.1	0.0	0.2
	9	3.0	2.9	3.1	-0.2	2.9	2.9	2.9	0.1	0.1	0.0	0.2
国	10	3.8	3.6	4.0	-0.4	3.7	3.6	3.8	-0.1	0.1	0.0	0.3
	11	4.2	4.1	4.2	0.0	4.0	4.1	3.9	0.3	0.2	0.0	0.3
	12	4.1	4.0	4.1	-0.2	3.8	3.9	3.8	0.1	0.2	0.1	0.3
	13	4.1	4.0	4.2	-0.2	3.9	3.9	4.0	0.0	0.2	0.1	0.2
国	14	4.2	4.0	4.4	-0.4							
国	15	4.1	3.8	4.4	-0.6	4.1	3.9	4.2	-0.4	0.0	-0.1	0.1
国	16	3.8	3.7	3.9	-0.3	3.5	3.5	3.6	0.0	0.3	0.2	0.4
国	17	3.9	3.7	4.1	-0.4	3.7	3.7	3.7	0.0	0.2	0.0	0.4
国	18	4.0	3.9	4.1	-0.3	3.8	3.7	3.9	-0.2	0.2	0.1	0.3
国	19	4.2	4.1	4.3	-0.3	4.0	3.9	4.1	-0.1	0.2	0.1	0.3
国	20	3.9	3.8	4.0	-0.3	3.7	3.6	3.7	-0.1	0.2	0.1	0.3
	平均	3.9	3.8	4.0	-0.2	3.8	3.8	3.8	0.0	0.1	0.0	0.2

凡例

	高評価項目(全体平均3.8以上)
商	商学科>国際コミュニケーション学科
国	商学科<国際コミュニケーション学科

2018年度卒業予定者回答傾向概要

- ① 学生生活に満足した学生（やや満足・大変満足）が全体の7割強（昨年度7割）
- ② 授業、基礎ゼミ、教員の取り組みに高評価（昨年度より上昇）
- ③ 就職指導やインターンシップなど、進路・キャリア関連の取り組みに高評価（昨年度と同様）
- ④ 充実した設備、キャンパスの快適さにも高評価（昨年度と同様）
- ⑤ クラブ・サークルの存在感 依然限定的（昨年度と同様）

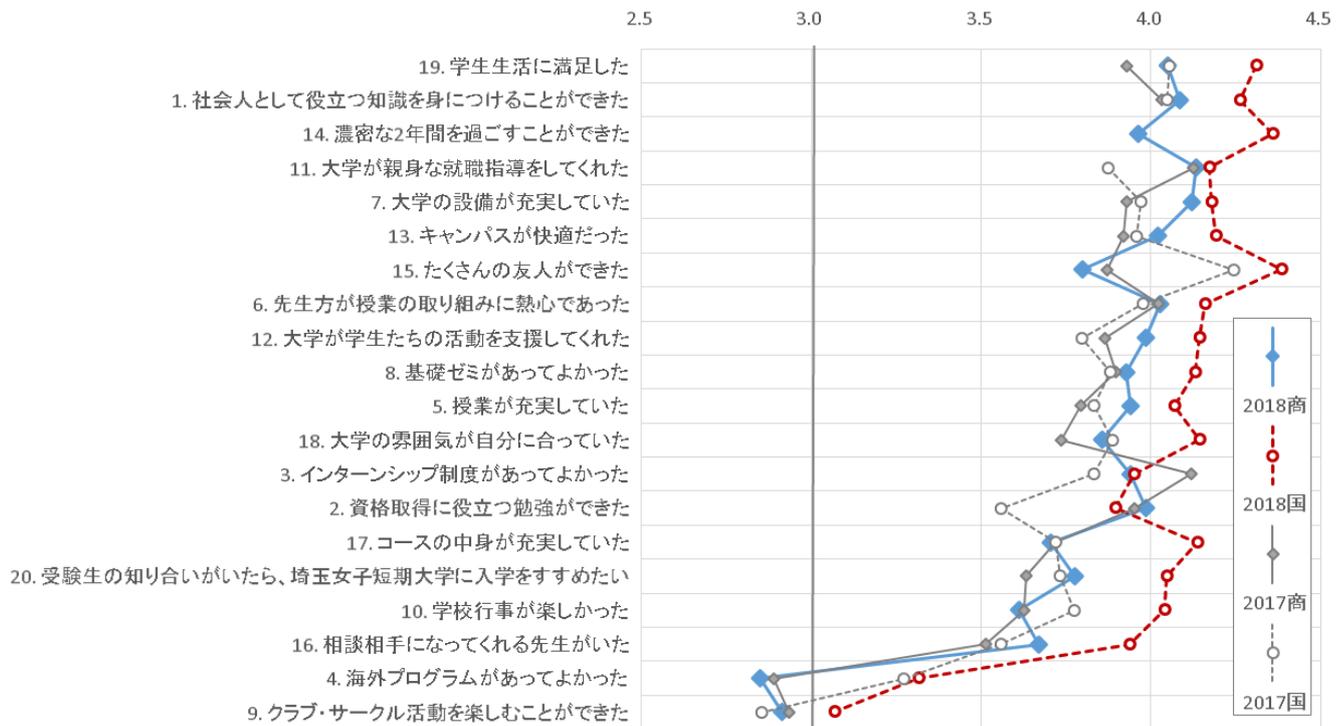


Figure 1 2018年度および2017年度の結果（2018年度全体高評価順）

高評価（3.8ポイント以上）および低評価（3.2ポイント以下）項目の分析

全体の平均点が3.8ポイントを越えた項目は、20項目中18項目に上り（詳細はTable 1参照）、昨年度以上に幅広い側面について高評価が得られた。昨年度に続いて、就職支援、社会人準備としての知識獲得、施設面等で高い満足が見られた他、新規項目の「14. 濃密な2年間を過ごすことができた」に対しても高い評価が得られ、入学以前の広報上のアピールと学生の実感の一致が確認された。また、「5. 授業が充実していた」「6. 先生方が授業の取り組みに熱心であった」「8. 基礎ゼミがあつてよかった」「12. 大学が学生たちの活動を支援してくれた」などにおいても高い評価が得られた。

一方、3.2以下の低評価項目は、例年と同じく「4. 海外プログラムがあつてよかった」「9. クラブ・サークル活動があつてよかった」の2項目であった。いずれも実際に活動に関わる学生が少数に留まることの結果と考えられる（2018年度学修時間・行動調査によれば、2年次夏の段階でサークル活動を全くしていない学生が全体の約75%）。

以上